

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 32

2017年4月10日

会長 大室剛志

事務局 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室内

tel.: 06-4307-3365 (研究室) / fax. 06-6729-2493 (経営学部 教養・基礎教育部門)

Email: segu.office@gmail.com

ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp> 郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

◆『英語語法文法研究』第23号刊行

『英語語法文法研究』第23号が2016年12月に刊行されました。第23回大会でのシンポジウム「副詞を巡る諸問題：語法文法、辞書記述、談話、文体」の論文4編のほか、7本の研究論文が掲載されています。

◆第25回大会開催案内

英語語法文法学会第25回大会を下記の要領で開催します。

日時：2017（平成29）年10月21日（土）

会場：専修大学 神田キャンパス

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町

3丁目3-8

<http://www.senshu-u.ac.jp/>

順路：

- ・水道橋駅（JR）西口より徒歩7分。
- ・九段下駅（地下鉄／東西線、都営新宿線、半蔵門線）出口5より徒歩3分。
- ・神保町駅（地下鉄／都営三田線、都営新宿線、半蔵門線）出口A2より徒歩3分。

今回のシンポジウムは、「英語の文をつなぐ接続現象」をテーマとして準備中です。司会と各講師は以下のとおりです。ご期待ください。

司会・講師 大竹芳夫（新潟大学）

「「文をつなぐ」仕組みと「文をつながない」仕組み」

講師 松尾文子（札幌保健医療大学）

「談話標識がつなぐもの」

講師 安井 泉（筑波大学名誉教授）

「『不思議の国のアリス』から見える「心」を伝えるつなぎ方」

[敬称略]

首都圏では宿泊予約の困難が予想されます。早めの宿泊予約をお勧めいたします。

◆第13回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時：2017（平成29）年8月7日（月）

13時30分～17時30分

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス 1004室

（〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19

アプローズタワー10階）

参加費：2,000円（資料代を含む）

今回のテーマは『使える英文法：名詞をめぐる形と意味』です。司会と講師、各講師のテーマは以下のとおりです。

司会（兼 講師）中山 仁（福島県立医科大学）

「ものの見方・考え方に応じた名詞句の使い分けについて考える」

講師 大室剛志（名古屋大学）

「修飾との関係で名詞の意味の中身を探る」

講師 中澤和夫（青山学院大学）

「名詞句の内と外」

講師 佐々木一隆（宇都宮大学）

「文的名詞句の正確な解釈から効率的な表現法へ」

[敬称略]

必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、平成29年7月31日(月)までに件名を「セミナー参加希望」として segu.seminar@gmail.com までお申し込みください。

◆第17回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第17回英語語法文法学会賞」（2015年4月1日～2016年3月31日までに出版された単行本が対象）について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第24回大会（奈良大学）において大室会長より報告されました。

◆第18回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第18回学会賞対象図書（今年度より**他薦に限る**こととなりました。）対象図書は2016年4月1日～2017年3月31日までに出版された単行本です。ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全10巻（本ニューズレターの最終頁も参照）は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください。同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、**fax**あるいは郵便で**2017年5月10日**までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容をファイル**email**で事務局までお知らせください（〒577-8502 東大阪市小若江 3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室 英語語法文法学会事務局 fax: 06-6729-2493 email: segu.office@gmail.com）。

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。

3 授賞式は年次大会において行う。

（関係部分一部抜粋）

◆第7回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第7回「英語語法文法学会奨励賞」は、今回は「該当者なし」という結果になったことが第24回大会（奈良大学）において大室会長より報告されました。

なお、第8回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

（授賞の対象）

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締め切りとする。

『英語語法文法研究』への応募論文（研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く）を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

（選考方法）

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

（選考結果の発表および授賞式）

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

（関係部分一部抜粋）

◆運営委員の交替

本年3月12日開催の運営委員会において、運営委員として以下の方の就任が承認されました（任期は2017年4月1日より2019年3月末日まで）。

大竹芳夫（新潟大学）

[敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方が運営委員を退任されました。学会運営に対するこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

松村瑞子（九州大学）

[敬称略]

なお、松村先生には編集委員はご留任いただき、引き続き本学会にご協力いただくこととなります。

◆運営委員会委員

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記のとおりです（◎は委員長、○は副委員長）。

大会実行委員会

◎滝沢直宏、○西田光一、林龍次郎、大竹芳夫、吉良文孝、住吉 誠、五十嵐海理

セミナー委員会

◎梅咲敦子、○牛江一裕、大橋 浩、澤田茂保 [敬称略]

◆第25回大会研究発表者募集

第25回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定にしたがい、事務局宛(segu.office@gmail.com)に奮って

ご応募下さい。

<研究発表応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内（別に質疑応答が10分）とする。
3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨（MS Word ファイル、あるいはPDF ファイル）：A4判 32字×25行（フォントは和文 MS 明朝、英数 Century で文字の大きさは10.5ポイント）で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報（MS Word ファイル、あるいはPDF ファイル）：発表題目、氏名（ふりがな）、所属・職名（学生会員の場合は学年も記入）、郵便番号、住所、電話番号、fax 番号、**email address** を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
 - ③ 発表要旨（書類）：①と同じ内容を印刷したものを1部。
 - ④ 応募者情報（書類）：②と同じ内容を印刷したものを1部。③とは別紙に印刷すること。
4. 上記①②は email に添付し、英語語法文法学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に送信する。件名は「研究発表応募」とする。上記③④は封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛（〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室内）に送付する。
5. 応募締め切りは **7月25日（火）（必着）** とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨（500字以内）を8月21日（月）までに、予稿集の原稿を9月24日（日）までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

（2014年3月8日 改定）

〔事務局からのお願い〕

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆第25回大会語法ワークショップ発表者募集

第25回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートのものでも結構ですから、会員の方は下記の語法ワークショップ応募規定にしたがい、事務局宛に奮ってご応募ください。

<語法ワークショップ応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は12分以内（別に質疑応答が5分）とする。
3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨（MS Word ファイル、あるいはPDF ファイル）：A4判 32字×25行（フォントは和文 MS 明朝、英数 Century で文字の大きさは10.5ポイント）で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報（MS Word ファイル、あるいはPDF ファイル）：発表題目、氏名（ふりがな）、所属・職名（学生会員の場合は学年も記入）、郵便番号、住所、電話番号、fax 番号、**email address** を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
 - ③ 発表要旨（書類）：①と同じ内容を印刷したものを1部。
 - ④ 応募者情報（書類）：②と同じ内容を印刷したものを1部。③とは別紙に印刷すること。
4. 上記①②は email に添付し、英語語法文法学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。上記③④は封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛（〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室内）に送付する。
5. 応募書類の提出期限は **7月25日（火）（必着）** とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨（500字以内）を8月21日（月）までに、予稿集の原稿を9月24日（日）

までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

(2014年3月8日 改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』（第24号）への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、本規程の第5項以下が2015年8月の編集委員会・運営委員会で大幅に改訂されておりますので、ご確認をお願いいたします。

＜『英語語法文法研究』（第24号）の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 論文の場合、長さは34文字×31行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは34文字×31行、6枚以内とする。
5. 投稿者は、下記①②のファイルと③④のハードコピーを用意する。
 - ① 論文・語法ノートの原稿（MS WordファイルまたはPDFファイル）。冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。ファイルの情報として作成者名を残さないこと（ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする）。

② 執筆者情報（MS WordファイルまたはPDFファイル）。論文題名、氏名（ふりがな）、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、fax番号、email addressを明記する。なお、投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月（または在籍中ならばその旨）を、このファイルに明記すること。（奨励賞は、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に授与されます。）

③論文・語法ノートの原稿（ハードコピー）。

①をA4用紙に印刷した紙媒体の原稿1部。

④執筆者情報（ハードコピー）。②をA4用紙に印刷した紙媒体の別紙1部。

6. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。
 - a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
 - b. 例文の前後に1行ずつ空白行を設ける。
 - c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設けること。
 - d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しないこと。
 - e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - g. 小説・論文の出典は下のように表記する。
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
 - h. 注は脚注とする。
 - i. 上記以外は既刊号の論文を参考にすること。
7. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。

Hopper, P.J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二（編）『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京：英宝社。

小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京：大修館。

小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京：研究社。

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.

村田勇三郎. 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第125巻第3号, 20-21.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.

8. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
9. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
10. 原稿料は支払わない。
11. 応募書類の提出先。第5項の①と②のファイル (MS WordまたはPDF) はemailに添付して、編集委員長宛にemail (segu.paper@gmail.com) で送ること。なお、件名を「投稿」とすること。第5項の③と④の紙媒体の原稿と執筆者情報 (別紙) は、編集委員長宛*に郵送すること (「投稿論文在中」と朱記)。

*〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
青山学院大学文学部英米文学科 中澤和夫

(2015年8月4日改定)

【応募上の注意】

研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

◆英語語法文法学会第24回大会

英語語法文法学会第24回大会は2016年10月22日(土)に奈良大学にて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めて下さった牛江一裕先生、出水孝典先生に感謝申し上げます。また、開催校委員の内田聖二先生、西出公之先生、山本尚子先生、当日お手伝いいただいた奈良大学・奈良女子大学・神戸市外国語大学の学生・院生の方々にもお礼を申し上げます。なお、開催校の奈良大学からは、本大会開催に伴い補助金を頂きました。ここに記して感謝致します。

語法ワークショップ 10.30 - 11.38

(C 教室棟 2 階 201)

司会 松村瑞子 (九州大学)

1. 「いわゆる「同格節」における that の省略」
金子輝美 (元・愛知淑徳大学非常勤)

2. 「当為を表す HAD BETTER—SHOULD との比較とともに」 小澤賢司 (日本大学)

3. 「We've never had trouble in finding red foxes. の finding は動名詞か？」 桑名保智・三好暢博・戸塚将 (旭川医科大学)

4. 「Singular they の記述的考察」 大野真機・吉川裕介 (昭和大学)

研究発表 13.00 - 14.45

第1室 (C 教室棟 2 階 201)

司会 出水孝典 (神戸学院大学)

1. 「There 構文再考：下位講文と主語名詞」
三野貴志 (大阪大学大学院)

2. 「"Bell looks a girl." が使用される時：連結的知覚構文の補語に関する考察」 板垣浩正 (大阪大学大学院)

3. 「はねかえりの off：前置詞 off の意味に関する認知意味論的考察」 植田正暢 (北九州市立大学)

第2室 (C 教室棟 2 階 202)

司会 牛江一裕 (埼玉大学)

1. 「far from it の語法」 明日誠一 (青山学院大学非常勤)

2. 「as if 独立節の意味と機能について」 井上徹 (成城大学)

3. 「英語の意味内容の豊かな名詞句の同一指示用法と対話の定式化」 西田光一 (下関市立大学)

シンポジウム 15.35 - 17.45

(C 教室棟 1 階 102)

テーマ「Spoken English と Written English をめぐって」

司会 内田聖二 (奈良大学)

1. 「Spoken English における構造的な特徴について」 澤田茂保 (金沢大学)

2. 「ダイクシス、あるいは時間・場所・人称の一致について」 内田聖二 (奈良大学)

3. 「コーパスでできること—量的分析の深化から質的分析へ」 赤野一郎 (京都外国語大学名誉教授)

コメンテーター 八木克正 (関西学院大学名誉教授)

懇親会 18.00 - 19.30

喫茶ならやま (E 棟 1F)

◆2016年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に加入してくださいました。どうぞよろしくお願ひ致します。
(50音順。掲載希望者のみ。)

板垣 浩正 (大阪大学大学院)
大澤 聡子 (鈴鹿医療科学大学)
岡本 真由美 (関西大学)
奥田 隆一 (関西大学)
吉良 拓真 (日本大学大学院)
國光 豊 (文教大学)
現影 秀昭 (埼玉学園大学)
佐藤 英聖 (日本大学大学院)
新谷 千鶴子 (公立高校教諭)
田中 江扶 (信州大学)
戸塚 将 (旭川医科大学)
長尾 純 (岐阜聖徳学園大学)
松田 佑治 (京都女子中学・高等学校)
三野 貴志 (大阪大学大学院)
三村 浩一 (帝塚山学院大学)
山崎 竜成 (東京大学大学院)
山本 尚子 (奈良大学)

[敬称略]

◆2015年度会計報告 (Apr. 2015-Mar.2016)

(第24回大会総会において承認されました。)

(収入) (以下、単位：円)	
前年度繰越残高	1,137,473
助成金 (全国大会開催校龍谷大学から補助)	121,000
会費	1,704,000
学会誌売り上げ	30,321
懇親会費	270,000
雑収入	75,250
計 (1)	3,338,044
(支出)	
事務局費	67,508
通信費	194,524
旅費交通費	293,726
印刷費	164,160
人件費	6,000
会議費	21,425
消耗品費	5,112
雑費	9,354
雑誌製作費	821,482
大会運営費 (含 懇親会)	268,113
計 (2)	1,851,404
残高現在 [計(1)-計(2)]	1,486,640

◆年会費納入のお願い

2013年4月1日より年会費が変更され、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となっております。つきましては、2017年度 (2017年4月～2018年

3月) 会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください (郵便振替料金は120円 (ATMからは80円) です)。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、昨年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学院名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会のウェブサイト (<http://segu.sakura.ne.jp/>) の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

◆新刊書紹介

澤田茂保. 『ことばの実際 1 話しことばの構造』 (「<シリーズ> 英文法を解き明かす—現代英語の文法と語法」9). 東京: 研究社. 2016年4月.
住吉誠. 『談話のことば 2 規範からの解放』 (「<シリーズ> 英文法を解き明かす—現代英語の文法と語法」4). 東京: 研究社. 2016年4月.
大竹芳夫. 『談話のことば 1 文をつなぐ』 (「<シリーズ> 英文法を解き明かす—現代英語の文法と語法」3). 東京: 研究社. 2016年7月.
中山仁. 『ことばの基礎 1 名詞と代名詞』 (「<シリーズ> 英文法を解き明かす—現代英語の文法と語法」1). 東京: 研究社. 2016年8月.
八木克正. 『斎藤さんの英和中辞典—響きあう日本語と英語を求めて』. 東京: 岩波書店. 2016年10月.
宮川幸久・林龍次郎編、向後朋美・小松千明・林弘美 (著). 『《新装版》[要点明解] アルファ英文法』. 東京: 研究社. 2017年1月.

編集後記

2016年4月より事務局を担当させていただくこととなりました。微力ながらも、大室会長、会計担当の前川貴史氏、運営委員の各先生方の協力を得つつ、学会運営に尽力させていただきます。

事務局を担当早々に、本学会とも深い関わりがあった、安井稔先生の訃報が届きました。まさに巨星墜つといえる出来事でありました。さらに、先日には安藤貞雄先生ご逝去の報も届きました。安井先生、安藤先生のいずれも本学会の学会賞を受賞されておられました。両先生のご冥福をお祈りいたします。

2016年度は幸いにも大過なく事務局運営を終えることができました。引き続き、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(2017年4月7日 吉田幸治)